

ニセマツカサガイ

小川や用水路などの砂地の水底にすむ淡水産の二枚貝です。

幼生はオイカワやカマツカなどの魚のエラに寄生して大きくなります。成長すると、砂の中に潜り頭だけ出して水中の有機物や植物プランクトンを吸い取って食べることから、水質浄化にも貢献しています。

このような特徴から、ほかの二枚貝と同様にタナゴ類が貝の中に産卵することでも知られています。魚たちとは持ちつ持たれつの関係にあるわけです。

水辺の環境の指標になるこうした淡水性二枚貝の多くは全国的にも個体数が減り、絶滅が危惧されています。今ある水辺を大切にしていきたいですね。

